

# INTER SECTION

VOL.01

[インターTOMAS会員のための英語情報誌 インターセクション]

INTERSECTION [交差点]

英語の最新情報が行き交う  
「交差点」のような雑誌をめざします。

NEWS & TOPICS - 02

どうなる!? 「大学入学共通テスト」

FEATURE - 04

本当に聞ける・話せるようになる!  
セミバイリンガル・メソッド公開



インターTOMAS

荻窪スクール

**Bina 先生**

○ PROFILE

ニュージーランド出身。日本の大学に長期留学経験があり、日本語が堪能。媒介語を使用した効率のよい授業に定評がある。

One of the most important points for communicating in English is not to be afraid of making mistakes. You don't have to be perfect.



インターTOMAS

横浜スクール

**Felipe 先生**

○ PROFILE

コロンビア生まれのカナダ育ち。英語・スペイン語・フランス語を操るマルチリンガル。ラテン系の明るい性格は生徒に大人気。

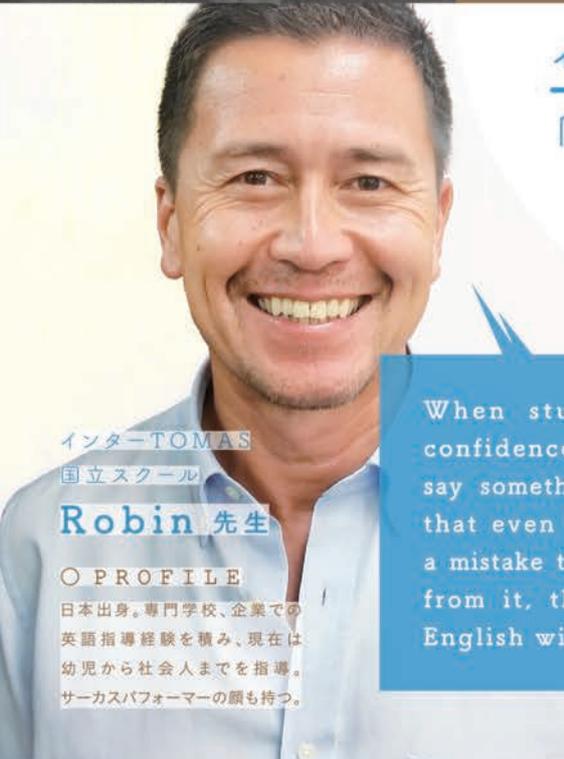
Reading is a great way of practicing your English. It's helping you to communicate more fluently and clearly.

大学入試制度改革で  
英語で話す力が  
ますます重要に!

インターTOMAS講師に聞きました!

「英語でコミュニケーションする  
ために必要なことは!？」

※制度改革の詳細は  
次ページへ



インターTOMAS

国立スクール

**Robin 先生**

○ PROFILE

日本出身。専門学校、企業での英語指導経験を積み、現在は幼児から社会人までを指導。サーカスパフォーマンスの顔も持つ。

When students have confidence to try and say something, knowing that even if they make a mistake they will learn from it, their skills in English will increase.



インターTOMAS

目黒スクール

**Megu 先生**

○ PROFILE

日本出身。海外滞在(タイ)歴10年。英会話講師歴3年。明るく親しみやすい性格で生徒一人ひとりに合わせた授業を提供している。

I believe it is important to have an open mind and use phrases and vocabulary familiarized to transfer information and emotions to each other.

英語学習や資格取得の最新情報をPick up!

今回の  
テーマ

# どうなる!?

## 「大学入学共通テスト」

2020年度から始まる「大学入学共通テスト」(以下:共通テスト)で、英語試験が大きく変更することはすでにご存じと思います。「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を総合的に評価するため、民間の資格・検定試験を活用するほか、推薦入試などの個別選抜では、記述式問題や小論文など思考力や表現力をみる試験を増やす方針です。



今の中学3年生から!

### ○ 4技能評価への転換

学習指導要領では、4技能をバランスよく育成することが求められています。しかし、現行のセンター試験は、選択式で問う「読む」「聞く」の2技能を中心にした評価であり、「話す」「書く」の評価はほとんどありません。次期学習指導要領で、さらに4技能の総合的強化が予定されるため、新しい共通テストで4技能の総合的評価を行う方向になりました。

### ○ 英検など民間試験の活用

共通テストは受験者数が多いため、同日に一斉に「話す」「聞く」の試験を実施するのは困難です。そこで、4技能評価を行っている民間の資格・検定試験を活用することが決定しました。大学入学者選抜に活用するうえで、試験内容や実施状況体制などが必要な水準・要件を満たしている試験を大学入試センターが認定します。英検やTOEFLなどが候補

に挙がっていて、今年度中には決定する予定です。大学受験に利用できるのは、高3の4~12月間の2回までの受験結果。その試験結果とCEFR(ヨーロッパ共通言語参照枠)の段階別成績表示が大学に提供されます。また、試験の有効期限の取扱いや既卒者の対応については、今後の検討事項となっています。

※文部科学省「高大接続改革の実施方針等の策定について」(平成29年7月13日)より参照

## 今こそ求められる “本物の英語力”

インターTOMAS  
ゼネラル・マネージャー  
森 秀和



### 英語をチャンスに

2020年から新入試制度が導入されるにあたり、対策に不安を感じている方も多いと思います。特にスピーキングに関しては公教育でどれだけフォローできるのかという問題もあり、個人での取り組みで合否が分かれるといっても過言ではありません。逆に考えれば、これからは「英語がアドバンテージになる」時代であるともいえます。例えば、上智大学や立教大学などでは、すでに外部の資格検定試験の結果を英語の試験に代える制度が採用されています。上智大学の英語入試に代替できるのはTEAPですが、有効期限が2年間あり、出願基準スコアを満たすことができれば、残りの時間を他教科の勉強に充てられるのです。もちろん、より早い段階から対策をスタートし、高2でスコアをとってしまうことが理想的でしょう。英語は文系・理系に関係なく、誰もが受験する科目です。先手を打って新入試制度の対策を行い、受験を有利に進めていきましょう。

### 求められる「本物の」英語力

従来の入試対策では机に向かって手を動かす知識偏重の勉強が多かったのですが、新入試制度では生きた英語を学びながら4技能を相互的に鍛え上げていく必要があります。当然詰め込み勉強では対応できないので、早いうちからある程度の時間を確保してコツコツと取り

組むことが重要です。インターTOMASの「加圧式音読(PR)トレーニング」や「マイストーリー(MS)トレーニング」はスピーキングに重点を置いたトレーニング法ですが、実際はその過程でリスニング力や、リーディングのスピードアップも期待できる総合的な学習となっています。ご家庭においても毎日20~30分は声に出した練習を繰り返し、ご家族の方にはチェックをしていただくなどして、能動的な学習姿勢を習慣化するのです。また、英語を話す上で肝になるのは「なぜ? どうして?」と理由を突き詰めて考えていく論理的な思考法です。たとえば英検3級の二次試験でも、「好きな季節は?」と聞かれたあとに、「それはなぜ?」と理由まで問われます。日頃から幅広いことに関心を持ち、自分なりの意見を持つことも必要不可欠です。

### 入試へのアプローチ

まずは、受験に必要な基礎力を身につけているかどうかの目安となる英検2級にたどり着くこと。これがスタートラインとなりますので、中学卒業までに取得することを最初の目標としましょう。英検は、2級まではオーソドックスな問題が並ぶので、日常の英語学習をきちんと行っていれば十分手の届く目標です。その後は志望校に合わせ、必要な検定を計画的に受けていくこと。日本の大学への進学を希望しているのであれば英検準1級やTEAP、海外大学への進学も視野に入れている場合はTOEFLやIELTSなどが

挙げられます。それぞれの試験には特徴とも言える「型」があるのでそれぞれ対策は異なります。ただ、「型」にとらわれすぎると、「選択問題は解けるが記述になった途端に得点できない」といった落とし穴にはまってしまう。目的は「英検に受かること」ではなく、先々のステップに向けて「本物の英語力を身につけていくこと」のはずです。手段の目的化とならないように、アウトプットもしっかり意識していきましょう。

### 受験英語 vs 英会話

落とし穴は、受験英語の陰にも隠れています。入試制度が変わるといっても、ライティング、スピーキングともに、あくまで点数化されるものでしかありません。結局「学問としての英語」の枠を出ることはなく、専用の「対策」に追われることになるでしょう。そして、いざ話そうと思っても文法や発音のささいな「間違い」を恐れて何も話せなくなってしまう。そうなるのは本末転倒です。そもそも入試制度が変わる意図を考えると、今求められているのは「一字一句間違えずに英語を話せる人材」ではなく、「国際社会においても自分の意見を発信できる人材」です。もちろん、完璧な英語を話せるのであればそれに越したことはありませんが、英語はあくまでツールです。その先にはコミュニケーションがあるということを忘れてはいけません。

#### 英 検

3段階の英検Jr.のほか、5級・4級・3級・準2級・2級・準1級・1級がある。リーディング、リスニング、スピーキングに加え、3級以上でライティングが課せられ4技能試験となる。学習進度をはかるペースメーカーとして利用できる。

#### TOEFL iBT / IELTS

海外留学や研修、および海外移住申請のための語学力証明として広く利用されている資格。国や教育機関によって必要とされる資格・スコアが異なる。出題分野は多岐にわたり、さまざまなテーマに関する背景知識も求められる。

#### TEAP

日本の大学入試向けに開発されたテスト。英語で講義を受ける、英語の文献を読み解く、英語で発表を行うなど、大学教育で遭遇するシーンを想定した内容。アカデミックな内容が多いが、レベルは準2級~準1級程度。英検に慣れている場合は解きやすい。

# 本当に聞ける・話せるようになる！ セミバイリンガル・メソッド

公開

インターTOMASでは、日本人が本当に英語を話せるようになるオリジナルのメソッドがあります。どのようなメソッドなのか、体験者の声とともに詳しくご紹介します！

インターTOMAS  
荻窪スクールを取材！

ネイティブ講師、バイリンガル講師、  
スタッフの皆さん

inter TOMAS  
OGIKUBO school

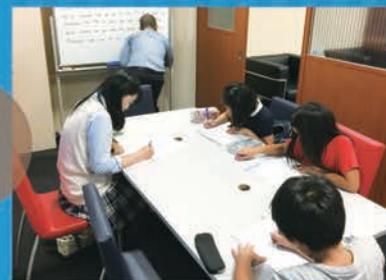


荻窪スクールはインターTOMASで最も古いスクールです。生徒さんは、幼児から学生、会社員やリタイアされた方など幅広くいらっしゃいます。世界中のさまざまな国や地域から、多様なバックグラウンドを持つ経験豊富な講師陣が集まり、熱意あふれる授業を行っています。

インターTOMAS  
オリジナル  
セミバイリンガル・  
メソッドとは？



マイストーリー (MS) トレーニング  
自分自身について表現するレポートリーを増やして、「話す」スキルを高めます。



加圧式音読 (PR) トレーニング  
さまざまな速度で音読を繰り返すことで、「聞く」「読む」スキルを高めます。

英語は苦手だったけれど、  
本当に話せるようになりました！

～2年間で、英検2級に合格！～

インターTOMAS荻窪スクール 石川美寿々さん(中学1年生)



ホームステイに来た留学生と全然会話ができず、悔しくて本当にしゃべれるようになってい！と思ったことが、英会話を始めたきっかけです。

### 毎日通って英語に慣れた3カ月間

— インターTOMASにはいつから通っていますか？  
小学校5年生のときからです。

— 通おうと思ったきっかけは？

4年生の夏に、アメリカ人がうちにホームステイに来たのですが、全然しゃべれなくて、会話ができなかったのがとても悔しくて。そのときに英語を話せるようになりたいと思って、通うことを決めました。最初の3カ月間は、毎日通っていました。

— 毎日通っていたのはすごいですね。

もともと英語は全く得意ではありませんでした。読めないし書けないし、しゃべれない。レッスンでは、周りの子はみんなしゃべれるのに、自分だけしゃべれなくて恥ずかしくて悔しくて…複雑な気持ちでした。

— 英語にはすぐ慣れましたか？

初めは全然しゃべれませんでした。加圧式音読(PR)トレーニングでは、一週間かけて同じスクリプトを練習するので、段々と口が慣れてきて、最後にはスラスラ言えるようになりました。それを繰り返していたので、意識しないうちに自然と口が慣れてきて、耳も慣れて聞き取れるようになりました。

### 不得意だった英語が得意に

— 普段、受けているレッスンについて教えてください。  
プライベートレッスンと加圧式音読(PR)トレーニングがあります。プライベートレッスンでは先生の英語を聞いているうちに、こうやって話す、というのが自然にわかったので、先生の英語を真似していたら、しゃべれるようになりました。授業の半分ぐらいは会話中心で、今日何があったかとか、最近のことなどを話しています。ときどき、あるテーマについて書いてくる、という宿題が出ます。書いてきた文章をチェックしてもらって、間違っている箇所やフレーズなどを教えてもらいます。PRトレーニングは、4～5人ぐらいのグループレッスンで、

一週間同じスクリプトを使います。英文はスラッシュとダブルスラッシュで区切ってあって、最初に先生がスラッシュまで読んだ後に皆でリピートをする、というのを繰り返します。その後、スラッシュごとに一人ずつ順番に読んでから、文で区切ってあるダブルスラッシュを読んで、慣れてきたら今度は一人ずつ、全文を読みます。時間があるときは、速読をしてタイムを計ったりもします。

— ここが一番成長したな、と思うところはどこですか？

速読が得意になったことと会話です。速読はかなり長い文章でも理解できるようになりましたし、会話は日常会話やよく使うフレーズなどを覚えることができ、発音も上達しました。ネイティブの発音を聞いたことがなかったのですが、トレーニングをしているうちに、発音が上手になったと思います。



### 英検対策のポイントは

「単語を書く」と「声に出す」

— 英検2級に合格したそうですね。

英検の対策として、夏休みの特別授業で、リスニングと文法の授業を受けました。単語は週に50個覚えることを目標に、とにかく「書く→声に出しながら書く」の流れで頭に入れていました。それでも覚えられない場合は、例文を自分で作って覚えるようにしました。単語や文法は書いて覚える、プライベートレッスンでは会話をする、とどちらもやっていたからか、だんだん身につけてきました。授業で出てくる単語はほとんど知らない単語で難しかったのですが、それを調べて覚えていたら、試験に出たこともあります。今年は準1級を受けます。

## なぜ、セミバイリンガル・メソッドで話せるようになるのか

英会話スクールに通っているけれど、上達しない。学校のテストで点は取れるけど、会話には自信がない…。そんな悩みを解消すべく生まれたセミバイリンガル・メソッドについてスクール・マネージャーの西村 展和さんにお聞きしました。



インターTOMAS  
荻窪スクール  
スクール・マネージャー  
西村 展和

### 何年も習っているのに 話せないという声を聞きます。

本来、言語の修得には膨大な時間が必要です。仮にネイティブの人が一日5時間英語を話すとして、年間で2千時間。10歳の子と同等の英語力を身につけるためには、単純計算で2万時間もかかることになってしまいます。しかし当然ながら、私たち日本人がそれだけの時間を英語学習に費やすことは現実的ではありませんよね。その溝を埋めるためにどのような勉強法が最適か、ということを考えていく必要があります。そして、それに対する私たちの答えが、皆さんに受けていただいている「セミバイリンガル・メソッド」なのです。

### セミバイリンガル・メソッドに ついて改めて教えてください。

できる限り多くの英語のシャワーを浴びること、そしてFluency【流暢性】(情報を、適切に素早く数多く処理し出力する能力)を鍛えることに主眼をおいたメソッドで、「加圧式音読(PR)トレーニング」と「マイストーリー(MS)トレーニング」の2本の柱からなっています。「PRトレーニング」では、文節ごとにスラッシュで区切った英文シートを使い、英文と和訳を交互に音読していきます。はじめはゆっくり、その後徐々にスピードを上げ、最終的にはネイティブよりも速く読み上げることを目標にします。自分で言える言葉は聞き取ることもできるので、リスニング力も同時に鍛えることができます。また、前から訳していく習慣をつけることで読むスピードも速くなったり、難しい文章を区切って読むことで簡単に理解できるようになったりと、長文読解力にも大きく影響します。もちろん、リスニングにも有効ですね。

「MSトレーニング」では、よくあるシチュエーションを取り上げ、そこで繰り広げられる会話の回答文を作成。その後、質問を投げかけたら条件反射で答えられるレベルまで徹底して暗唱します。このとき、質問文も覚え、会話のための礎を築きます。「丸暗記で後々どれだけ応用できるのか？」というご質問をいただくことがあります。初めに定型文を頭にしみこませておけば、あとから授業で文法を習ったときに理解がスムーズですし、そうやって少しずつ知識の肉付けがされていくうちに、自ずと応用力は身につけていくものです。

### これらのメソッドは 上級者にも有効ですか？

上級レベルの方でも、日本の英語教育を受けていると、前から訳していくことはできないという方がほとんどです。また、スラッシュ音読では、日頃英文を読む際になんとなく読み飛ばして理解した気になってしまっていたような箇所も、すべて訳出しますから、曖昧な知識を見つけ出すことにつながります。社会人の方であれば、働いている業種によって使う単語やフレーズはさらに限定的になるため、MSトレーニングは尚更効果的です。英語でプレゼンをする予定がある、海外出張に行くことになった、など一人ひとりの状況に合わせて最適なマイストーリーを作成し指導していきます。

### 英語学習の 理想的な私たちはやはり マンツーマンなのでしょうか。

マンツーマン・レッスンにも、グループ・レッスンにも、それぞれメリット・デメリットはあるものです。インターTOMASではマンツーマン・レッスンとグループ・レッスンを組み合わせて受講することが

可能です。たとえば、爆発的な反復練習の量が必要なPRトレーニングはグループ・レッスンで行い、場のパワーを活用すると同時にコミュニティーを構築し、レッスン以外でも練習する場ができればよいと考えます。それとは反対にMSトレーニングでは、その方の文法レベルに合った緻密な文章を作成する関係上、マンツーマン・レッスンが効果的。併せて英検やTOEICの対策をしたいという場合も、適宜マンツーマン・レッスンを組み合わせることをおすすめします。

### そもそも英語が嫌いな人でも 取り組みますか？

苦手意識がある子ほど、一人で取り組むのは難しいものです。苦手意識を抱いてしまったのは、学校や塾での勉強法が合わなかったからではないでしょうか。まずは思い切って声に出してみよう。わからなくてもとにかくやってみることから始めればよいのです。このメソッドでは、会話を暗記するので確実にひとつずつ「話せる英語」が増えていきます。また、音読の速度を計っていく中で、タイムという明確な形で成果が見えるということもあり、成功体験を得てモチベーションが上がっていくケースも多く見られます。実際に、インターTOMASに入会してから英語の偏差値が20以上も上がった子もいますよ。

### 伸びる生徒は どんな生徒ですか。

なんと言っても、「間違いを恐れない子」ですね。失敗を恐れずに口にする。間違っただけで前に進めるのです。そして「話せた!」という成功体験を持つことができれば、英語はもっと楽しくなるはずですよ。

# Let's Try

あなたもセミバイリンガル・メソッドに挑戦してみましょう！

## マイストーリー(MS)トレーニング

表現のレパートリーを“丸暗記”することで、話すスキルを高めましょう！

1

### 話したい内容を決める

まずは、英語で話したい内容を決めます。趣味や海外旅行での会話、英語でのプレゼンテーションなど一人ひとりの状況に合わせてストーリーを決めます。

2

### スクリプトを作る

話したい内容がまとまったら、その会話のスクリプトを講師と一緒に作成します。

3

### スクリプトを繰り返し練習する

スクリプトができあがったら、質問文と回答文を徹底して暗記します。両方を暗記することで、定型文を頭に定着させて会話の基礎を作ります。

4

### 表現のレパートリーを増やす

毎回の授業ごとに、新たなレパートリーの表現を練習します。授業を重ねる度に表現できることが増えていくので、話す力が確実に高まります。

## 加圧式音読(PR)トレーニング

速く読み上げることが目標に、ひたすら音読しましょう！

1

### スラッシュリーディングで頭から読んでいく

文節ごとにスラッシュで区切り、英文と和訳を交互に音読することで、長文読解のためのリーディング力が高まります。

2

### 音読を繰り返す

最初は速く聞き取れなかった英語が、音読を続けているうちに耳が慣れて、リスニング力がつきます。難しい文章を区切って読むことで、簡単に理解できるようになります。



英文と和訳を交互に音読します

3

### ナチュラルスピードに慣れる

慣れてきたらナチュラルスピードに挑戦です。読むスピードが速くなり、文章構造が頭に入るので、スピーキング力やライティング力の向上につながります。

## ▶ 今すぐスラッシュリーディングを体験！

スラッシュごとに英文と和訳を交互に読んでいってください。徐々にスピードを上げていきましょう。

### < The Great Barrier Reef >

This news is / about the Great Barrier Reef. // It is / このニュースは / グレートバリアリーフについて // それは / a beautiful place. // A lot of animals live / きれいな場所だ // たくさんの動物が生息する / at the reef. // It is / in Australia. // さんごしょうに // それは / オーストラリアの中 // An organization protects / the reef. // It decides / ある団体が保護する / さんごしょうを // それは決める / to make a video. // People put a camera / 動画を作ることを // 人々はカメラをつける /

on a turtle. // The turtle swims / in the water. // ウミガメの上に // そのウミガメは泳ぐ / 水中を // It films / a beautiful video. // それは撮影する / きれいな動画を // The organization shows / the video / to people. // その団体は見せる / 動画を / 人々に // These people decide / that they want to / その人たちは決める / 彼らはしたい / protect the reef. // They tell Australia / to protect it. // さんごしょうを守る // 彼らはオーストラリアに伝える / それを守るように //



WEBから他の例文も体験できます。

インタートマス

www.inter-tomas.com

# 知っておきたい キーフレーズ



ホテル チェックイン編

「荷物を預かってもらえますか？」

一見、簡単そうな表現でも、意外と  
スッと出てこない英語のフレーズ  
をご紹介します。知っておくと、自然な  
会話ができますよ！



ハワイに旅行に来たあなたは、チェックイン時間前にホテルに到着しました。  
フロントに荷物を預けて出かけた！ そんなとき、何と云えばいいのでしょうか？

私 : **Could you keep my baggage until check-in please?**

(チェックインまで荷物を預かってもらえますか?)

ホテルマン : **Sure. When will you come back?**

(もちろんです。何時頃に戻られますか?)

私 : **I'll be back around 5 o'clock.**

(17時頃には戻ります)

ホテルマン : **All right. Bring this card to the front desk.**

(承知しました。こちらのカードをフロントまでお持ちください)



今回のキーフレーズ

**Could you keep ~ ?**

(~を預かってもらえますか?)

「Could you keep ... until ~?」とセットで覚えて  
おくと、やり取りがスムーズにいきます。

これだけでも丁寧な頼み方ですが、“you”の後ろに  
“please”を付けると、より丁寧な印象を与えます。

## ワンポイント

荷物を受け取りたいときは…

- Can I have (get) my baggage?
- I'd like to pick up my baggage.
- May I pick up my baggage?

(荷物を受け取りたいのですが)

インターTOMAS

目黒スクール Andrew 先生



| 池袋 ☎03-3981-3769 | 市ヶ谷 ☎03-5215-3769 | 荻窪 ☎03-5347-3759  
| 国立 ☎042-580-1369 | 渋谷 ☎03-3492-3759 [目黒スクール管轄]  
| 目黒 ☎03-3492-3759 | 横浜 ☎045-317-3769 | 千葉 ☎043-246-0161

☎ <https://www.inter-tomas.com> ※本誌の無断転載を禁じます